

日常生活の事故

～高齢者・子どもの事故防止対策～



高齢者の事故防止

日常生活の事故による救急搬送件数
令和4年中 139,710人 65歳以上は83,345人

65歳以上
約60%

東京消防庁管内では、日常生活の事故による救急搬送が増加傾向で、その約60%が高齢者です。事故の内容は「ころぶ」

「おぼれる」「窒息・誤飲」などがあります。高齢者に特徴のある事故やその予防策を知り、事故を未然に防ぎましょう。

全体の
約80%

最も多い事故は「ころぶ」事故！

日常生活で最も多い「ころぶ」事故の割合は約80%、中等症以上の割合は約40%になっています。原因の多くは、家の中の小さな段差や階段などによるものです。高齢者の事故はほかの年代と比べ、重症化しやすくなっています。



事故防止の心得

- 立ち上がる時には、近くのものにしっかりとつかまりましょう。
- 着替える時には、無理して片足立ちせずに腰かけましょう。
- 乗り物に乗り降りする際は、足元の段差に気を付けましょう。
- 自転車で段差を乗り越えるときは、急がず、慌てず、慎重に乗り越えましょう。

高齢者の 日常生活事故防止 屋内編



屋外編



東京消防庁公式チャンネル
YouTube映像

子どもの事故防止

日常生活の事故による子ども(12歳以下)救急搬送件数
令和4年中 **12,956人** (うち乳幼児(5歳以下)**8,608人**)
乳幼児のうち、1歳児が最多**1,929人**、次いで2歳児が**1,725人**

乳幼児
約70%

東京消防庁管内では、子ども(12歳以下)の日常生活の事故のうち乳幼児(5歳以下の子供)の事故が約**7割**を占めています。

乳幼児の事故 **最も件数が多い「落ちる」事故**

中等症以上の割合が最も高い「おぼれる」事故

転落・墜落

「落ちる」事故のなかで、窓やベランダなど高所からの転落・墜落は生命に危険を及ぼす可能性が高い。

窓やベランダからの「転落・墜落」を防ぐために

- ベランダを子どもの遊び場にしないようにしましょう。
- エアコンの室外機、植木鉢などを置く場所にも注意しましょう。
- ベランダへの出入口の窓などには、鍵を二重に設ける等の措置を講じましょう。
- 定期的に手すりにガタつきや腐食などがいないか、確認しましょう。



注意喚起動画

「STOP! 子供の転落事故」

作成:東京都生活文化スポーツ局
消費生活部生活安全課



おぼれ

乳幼児のおぼれる事故は、川やプールだけでなく、自宅の**お風呂**でも発生しています!

子どもの「おぼれ」を防ぐために

- 乳幼児をお風呂に入れているとき、水遊びをさせているときは、決して目を離さないようにしましょう。
- 病院に搬送された2人に1人が入院が必要と診断されています。ほんのわずかな時間に事故が多く発生していることを知っておきましょう。
- 子どもだけで入浴させないようにしましょう。



乳幼児の
日常生活事故防止



東京消防庁公式
チャンネル
YouTube映像

【問合せ先】

大森消防署 03-3766-0119 田園調布消防署 03-3727-0119
蒲田消防署 03-3735-0119 矢口消防署 03-3758-0119